

1 題材名 ボールゲーム「投運動」

2 題材について

(1) 題材の価値と魅力

体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」である。

本単元は、小学校学習指導要領解説体育編第1学年及び第2学年の内容「ゲーム」に次のように位置づけられている。

E ゲーム

(1) 次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。

ア ボールゲームでは、簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすること。

(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

(3) 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。

ゲームは、「ボールゲーム」と「鬼遊び」で構成されている。これらの運動は、勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動であり、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することを楽しさや喜びを味わうことができる運動である。具体的には、ボールゲームとは、簡単なボール操作の「ボール遊び」と簡単な規則で行われる「ボール投げゲーム」、「ボール蹴りゲーム」のことをいい、前者は「物やマークなどの的に向かってボールを投げたり蹴ったりする」的当てのボール遊びで、個人対個人、集団対集団で競争するゲームをする、後者は「攻めと守りを交代しながらボールを投げたり蹴ったりするゲーム（攻守交替のベースボール型ゲームに発展）、および攻めと守りが入り混じりながらゴールにボールを投げ入れたり蹴りいれたりするゲーム（ゴール型ゲームに発展）をする」のことである。ゲームの学習指導では、仲間と協力してゲームを楽しむことの工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を立てたりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となる。また、構成に行動する態度、特に勝敗の結果をめぐって正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。

(2) めざす子どもの姿について

4月から小学校生活が始まり、多くの児童が興味、関心をもって、意欲的に学習をしている。特に体を動かすことは大好きで、体育科学習を楽しみにしている児童は多い。しかし、「うまくできない」と体育科学習に不安を感じている子もいるように思われる。そういった児童の多くは、経験不足からくる不安な気持ちが強く、「練習したらできるようになる」という成功体験も乏しい。こ

のような子どもたちに「わかる・できる」という成功体験をより多くさせ、主体的に運動に取り組む子をめざしたい。

めざす子どもの姿として、自ら課題を見つけ、その解決を図るために自分たちで考えられるようになってほしい。そのためには、児童の「思考力を高める」ことで、児童は運動への興味や関心を掻き立てられ、運動へ主体的に取り組むのではないかと考えられる。そういった学習の積み重ねにより、体育科の目標である「運動に親しむ資質や能力」の育成につなげていきたい。

（３）本時に向けた教材研究

本単元を通して、しっかりと基礎となる感覚を身に付けさせながら、学習を進めていきたい。「思考力を高める」部分では、技能のこつを共有化したり、何回も挑戦したりしながら、学習を進めていきたい。その際、発達段階として技のポイントをうまく言葉にできなかったり、まとめることができなかったりすることも考えられるので、言葉だけでなく動きを通して教え合うなど、この時期の１年生に応じた方法で取り組みたい。そして、それを積み重ねることで、来年度以降の学習にもつなげていきたい。

本時の学習は、活動①（まとあてゲーム）のボールゲームの第４時となる。すでに同じ内容の学習を２時間行っており、自分なりのこつ（自分だけが分かる、気をつけるところ）をつかんでいる児童もいると思われる。そのこつを自分だけのものではなく、全体のポイント（自分だけでなく友達にも分かる、気をつけるところ）として広げられるようにしたい。そこで、「やってみよう（転がす、投げる、捕る）」を行うグループを少人数（１～２人）とし、一人あたりの運動量をしっかりと確保する。話し合う時間はできるだけ短くし、「わかった（わかる）」ことを、「できる」につなげるため、「やってみる」「ためす」の時間をしっかりと確保できるようにしたい。動きをイメージできるように図で掲示したり、集団で取り組める遊びを工夫したりすることを大切にしたい。

（４）題材の目標

- 簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすることができるようにする。（技能）
- ボールゲームに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。（態度）
- 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができるようにする。（思考・判断）

(5) 学習計画と評価について (全10時間) 第4時…本時

時	学習内容	評価規準
1	学習のねらいと進め方を知る。 用具等の使い方について知る。 きまり、学習の場、安全面について知る。 「やってみよう (転がす、投げる、捕る)」を行う。 学習のまとめ方を知る。	関心・意欲・態度① 思考・判断①
2	「やってみよう (転がす、投げる、捕る)」を行う。	関心・意欲・態度①
3	活動① (まとあてゲーム) のボールゲームを行う。	関心・意欲・態度②
4	本時のまとめをする。	思考・判断①
5		技能①
6	活動② (いろいろなドッジボール) のドッジボールを行う。	関心・意欲・態度③
7	チームで簡単な攻め方を決めて、ドッジボールを行う。	関心・意欲・態度④
8	本時のまとめをする。	思考・判断②
9	単元のまとめをする。	技能②
10		

評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
	①ボールゲームに進んで取り組もうとしている。 ②運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④危険物が無いか、ゲームをする場が十分あるかなどの場の安全に気をつけようとしている。	①ボールゲームの行い方を知り、楽しくゲームができる場や得点の方法などの規則を選んでいる。 ②ボールゲームの動き方を知り、攻め方を見つけることができる。	①物やマークなどの的に向かってボールを投げる的当てのボール遊びで、個人対個人、集団対集団で競争するゲームをすることができる。 ②攻めと守りを交代しながらボールを投げるゲーム (攻守交替のベースボール型ゲームに発展)、及び攻めと守りが入り交じりながらゴールにボールを投げ入れるゲーム (ゴール型ゲームに発展) をすることができる。

3 本時について

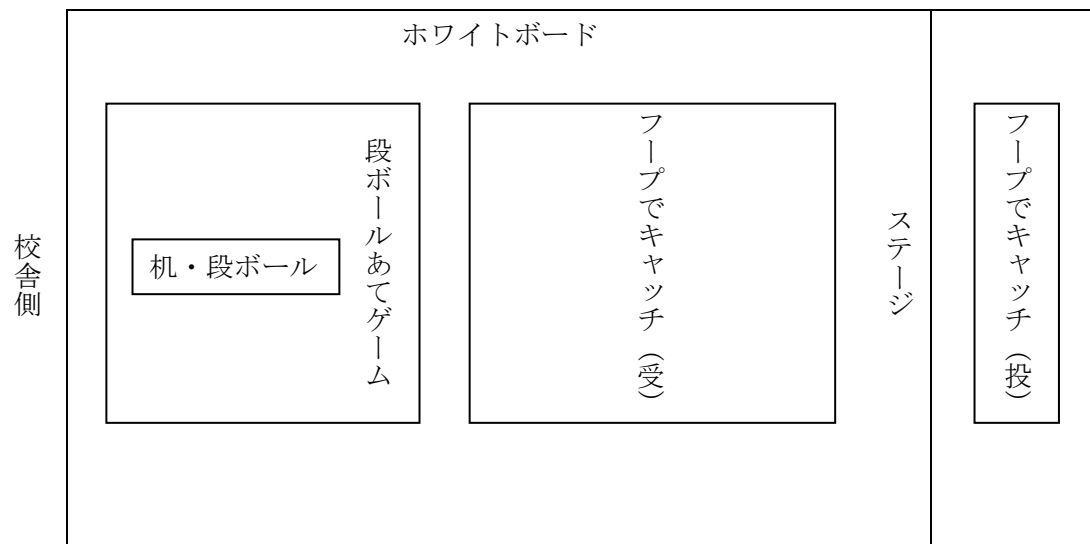
(1) 本時目標 友達と仲よくボール投げゲームができる。

(2) 準備 玉入れ用ボール

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援 ◎評価)

学習活動	教師の意図・支援
1 ボールの投げ合いをする。	○相手コートへのボールの投げ合いを通して、ボールゲームで使う部位を中心に体と心をほぐす。 ◇身体全体を使って、大きな動作で投げられるように声かけをする。
まとをねらって、ボールをなげよう。	
2 「やってみよう（投げる、捕る）」の運動をする。	◇前時を振り返らせることで、どこ（フォロースルー、体重移動、腰のひねり、正対）に気をつけたらよかったか、意識させるようにする。
3 まとあてゲームをする。 ・段ボールあてゲーム ・フープでキャッチ	○段ボールあてゲームでは「強く」「正確に」、フープでキャッチでは「遠くに」「正確に」「捕る」ために、どんなことに気をつけたかを考えながら活動させる。 ○グループ内での積極的な声かけを促すことで、技のポイントを共有化し、グループ活動へのヒントとなるようにする。 ◇机間指導の際に動きのポイントを見つけられるような声かけをする。「投げた後の手は、どうなっているかな。」「投げた後、前の足に体重が乗っているかな。」「相手の方に身体を向けて、捕ろうとしているかな。」
4 3の活動の中で気づいた技のポイントを発表し、学習のまとめをする。	○発表や板書を通して、グループでの活動を全体で共有化する。 ◇言葉ではうまく伝えられない場合は、動作を交えて発表するようにする。
5 まとめの運動をする。	○みんなで見つけた技のポイントを押さえながら、「やってみよう（投げる、捕る）」ができるように声かけを行う。

4 場の設定



5 板書計画

ボールゲーム

まとをねらって、ボールをなげよう。

○なげる	○とる
・ なげるほうをみる。	・ ボールをよくみる。
・ なげるてとはんたいのあしをまえにだす。	・ からだをあいてにむける。
・ こしをおおきくひねる。	

投動作の絵